

## プーチン氏の精神構造

【訳者注】プーチンは、これ以上放置できないと判断したときには、限定戦争として武器を取る。メディアが「プーチンが介入してきた」と言うとき、それは、当然の介入権をもつアメリカにプーチンが挑戦してきた、という意味で、誰もそれをおかしいと思わないでいる。そんな前提がどこからきたのか？ 誰がそんな権利を承認したか？ この論文は、この我々と同じ疑問を、プーチンが国連でぶちまけたことを紹介している。

By Patrick J. Buchanan

October 2, 2015, Information Clearing House



ウラジミール・プーチンは、ニューヨーク演説で、我々がロシアのリーダーに説明してもらうまでもない、中東での一連の悲劇を生み出した、アメリカの外交政策に対する、彼の告発を要約した。

我々がアフガニスタンを侵略して14年後に、アフガン軍は再び、Kunduz を支配しようと、タリバン勢力と戦っている。この荒廃した国にまだ残っている1万のアメリカ軍だけが、タリバンの権力奪回を防ごうとしている。

ジョージ・W・ブッシュがイラクを侵略して12年後に、ISIS は、その第二の都市モスルを占領し、その最大の地区アンバルを支配し、アンバルの首都ラマディを押さえ、一方、バグダッド政府は我々から逃げて、テヘランへ移った。

イラクの人々の“解放”の代価は？ 数十万人の死、50万の寡婦と父を失った子供、数百万人がこの国から消え、そして今も戦争は終わっていない。

我々（アメリカ）がリビアを“解放”して以来、この国はどうなったか？ 国は滅び、トリポリのイスラム主義集団「リビアの夜明け」と、エジプトの独裁者に支援された Tobruk 政権の内戦に、この国は引き裂かれている。

さらにイエメンがある。フーシ反乱軍が、サウジの傀儡を権力から追い払った 3 月以来、（サウジの）リヤド政府は、アメリカの兵器と情報力を用いて、アラブ世界で最も貧しい国民を爆撃している。

3 月以来、5,000 人が死に、2 万 5,000 人が負傷している。そして、2,500 万のイエメン人が輸入から得ている食糧をほとんど絶たれたので、現在のありさまを、ある国連職員は「人道主義的破局」と呼んでいる。

「イエメンはたった 5 か月後に、5 年後のシリアのような状態になった」と、赤十字の国際責任者が帰国後、報告した。

先の月曜日には、あるフーシ戦士の結婚パーティが、空中から発せられるミサイルで攻撃され、130 人の招待客が死んだ。我々（アメリカ）はその手助けをしたのだろうか？

プーチンは、これらの悲劇のイデオロギー的根源が、何だと考えているのだろうか？——

「冷戦が終わった後は、ただ一つの支配の中心が世界に出現しました。その後、自分はピラミッドの頂点にいたい込んだ人々が、自分は強く、例外的で、すべて自分が上だと考えるようになりました。」

その後、「うぬぼれと、自分の例外性と免罪性（exceptionality and impunity）に基づく」政策を採用した、「ただ一つの支配センター」であるアメリカが、「いわゆる民主主義革命」を輸出し始めた。

その結果がどうなったか？ プーチンはこう言う——

「侵略的な外国の干渉は、国家的諸制度の、鉄面皮な破壊に終わっています。・・・民主主義と進歩の勝利の代わりに、我々が得たのは、暴力、貧困、それに社会的災害でした。

「誰ひとり、生命への権利を含めて、人権に配慮する者がいないのです。」

我々が介入して以後に中東で起こったことの、プーチンの説明は、間違っているだろうか？それとも、アメリカの介入がもたらしたものについての彼の要約は、アメリカの政府批判者たちが、何年も前から警告してきたことを、反響するものだろうか？

プーチンの「国家主権」の考え方はこうだ——「我々はすべて異なっていて、それを尊重すべきです。誰ひとりとして、正しいものとして誰かが永遠に認めた、ある一つの発展モデルに、順応する義務はありません。」

かつてソ連邦がそのような試みをしたが失敗した、とプーチンは言った。今はアメリカが同じことをしようとしているが、必ず同じ結果に至るだろう。

たいていの国連スピーチとは違い、プーチンのそれは研究に値する。なぜなら彼は、新世界無秩序をもたらしたアメリカの精神構造を明確にただけでなく、起ろうとしている第二次冷戦の主たる原因を明らかにしているからである。

プーチンにとって、西側がその冷戦の勝利を利用して、NATO をロシアの玄関口にまで進出させたことは、内臓からロシアの嫌悪を催させるものだ。選挙で選ばれた親ロシア政府を転覆させた、アメリカ支援によるウクライナのクーデタは、新ロシアのドンバス地区での暴力的反動につながっていった。

プーチンが言おうとしているらしいことは、こうだ——

もしアメリカのエリートが、諸国家の内政に干渉する権利を主張し、よい社会と合法的政府とは何であるかについての、アメリカの理想に従わせようとし続けるならば、我々は永遠の紛争に向かうようになる。そして、アメリカの道徳的帝国主義に抵抗する国家が増えていくにつれて、ある日、それは必然的に戦争を引き起こす。

諸国家は自分自身である権利をもつ、とプーチンは言っている。

彼らは、彼ら自身の歴史、信念、価値、伝統を、自分の諸制度に反映させる権利をもつ——たとえそれが、アメリカから見て、非自由主義的デモクラシー、権威主義的資本主義、またはムスリム神権政治であつてさえ。

それほど遠くない昔、アメリカがこのことを問題にしない時代、外国の多様な政治体制を受け入れていた時代があった。実際、外国に対する不干渉という信念が、かつてはアメリカの外交政策の要石そのものだった。

水曜日と木曜日に、プーチンの空軍がシリアにおいて、アサドを倒そうとするアメリカ支援の反乱軍の陣地を爆撃した。プーチンはこういうシグナルを送っている——ロシアは、アメリカとの衝突にまでエスカレートする用意がある。それは米と、米の支援するスンニ派アラブ、それにトルコ同盟軍が、アサドの頭の上に爆弾の雨を降らせるのを防ぐためだ。そうなったら ISIS がダマスカスの権力を握ることになるからだ。

おそらく今は、我々（アメリカ）のイデオロギー的な高姿勢をやめて、我々が我々自身を保護し防衛するように、他の主権国家の、死活的利害を尊重し始めるべき時である。

（パトリック・J・ブキャナンは、新著 *The Greatest Comeback: How Richard Nixon Rose from Defeat to Create the New Majority* を出版した。ブキャナンについて、詳細は、Creator's Web ページの [www.creators.com](http://www.creators.com) を訪問されたい。）